# SuperTAINSに期待する

東北大学大型計算機センター　根元義章

抱えている課題を解決するという決意，希望，夢などを語る時，”21 世紀までには...”，”21 世紀における...”との表現がしばしば用いられます。21 世紀の到来はまだ，まだ遠い先のことと思っていましたが，あと 5 年で 21 世紀に突入するところまでせまってきました。さて，5 年という時間がどのような意味をもつか一概には論じえませんが，こと情報ネットワークに関して言えば，過去の 5 年における技術の進歩，利用形態の変革は激しいもので，極めて密度の濃い，あっと言う間の 5 年であったと実感しています。今後 5 年もその延長線上，あるいはもっと極端であるかもしれません。

1988 年，東北大学全学をあげTAINS88の計画が議論されていたとき，21 世紀に繋がる最先端のネットワークを構築し，育成していくことを基本的了解事項として進められていました。TAINS88により，東北大学におけるネットワークの利用形態は大きく様変わりしてきました。進展のスピードを明確に予言できた人は少ないのではないでしょうか。研究室からインターネットをいたって気楽に，簡便に利用し，世界的レベルで情報の交換，検索，収集を行っているのが現状です。阪神大震災で電話連絡がとれず安否を案ずる我々に卒業生から無事の知らせが電子メールで届き，新たな通信ネットワークであることを再確認させられもしました。大量のデータの転送もネットワーク経由が常識です。まさにTAINS88のもたらした成果といえるでしょう。

情報ネットワークの性能の上限は，通信技術と情報処理技術で最も遅れている点で決定されます。TAINS88の計画時でも，テレビ講義とか，テレビ会議などの動画系の情報交換システムの構築の夢がありました。いわゆるマルチメディアコミュニケーションです。しかしその時点では，技術的，経済的に越せない大きな壁が存在していました。この 5 年の間に，その壁は容易にクリアできるレベルとなりました。まさに技術が進歩したのです。今，SuperTAINSが完成し，TAINS88構築時の夢の多くが実現しようとしています。事実，コンピュータの専門家のみならず多くの人が容易にネットワークを利用し，自らの意のままに情報を加工，蓄積し，相互に交換できる状況となってきています。新たなネットワークは人間活動に不可欠な種々の情報交換を実現するのものであり，一種のあらたな文化を創出するものとなるのです。情報の発信源となりうる条件を考えると，発信すべき情報が特色，特徴のあるものでなければならないことは言をまちませんが，それらはオープンな情報ネットワークからアクセスされなければなりません。そのためには，まず新しいネットワーク文化を謳歌し，その優れた点を十二分に理解しえる状況に自らを置かなけれ

ばならないのではないでしょうか。

東北大学はTAINS88，SuperTAINSと絶えず先端的なネットワークを手にし，先端の文化を謳歌し，またしようとしています。このとき，新たな文化はどのようなものであるかを，身を持って体験することが重要です。今般，SuperTAINSの完成披露にあわせ，SuperTAINSが既存の何かを超えることを示すデモンストレーションが企画されています。今回のデモンストレーションは，東北大学及びネットワーク関連で東北大学と協力関係にある各社のネットワーク技術のポテンシャルを余すところなく示すものとなっています。まさに，新しい時代の幕開けを感じ取ることができる絶好の機会であるといえましょう。